

【本資料は、2025 年 2 月 21 日付で発表された Standard Chartered PLC 4Q'24 and FY'24 Results（一部抜粋）の日本語参考訳です。】

スタンダードチャータードPLC - 2024年度第4四半期および2024年度の業績

別段の注記がない限り、すべての数字は特別要因調整後ベースで表示されており、比較の対象は2023年度で報告通貨ベースとしています。特別要因調整後の業績に含まれていない「再編関連コスト」および「その他」の項目の内容は、原文「Standard Chartered PLC 4Q'24 and FY'24 Results」の33～36ページに記載しています。

ビル・ウィンターズグループ最高経営責任者は次のようにコメントしました。

「当行グループは2024年度、目覚ましい業績を達成しました。法人顧客向けの差別化されたクロスボーダー戦略と富裕層顧客向けウェルスマネジメントに関する先進的な専門知識を組み合わせるという当行グループの戦略は効率よく業績に反映され、有形資本利益率を11.7%に押し上げました。ウェルスソリューションが29%の増収と非常に好調で、グローバルマーケッツとグローバルバンキングが2桁成長となるなど、収益は過去最高の197億ドルとなり、その勢いは2025年も継続しています。当行グループは本日、15億ドルの自社株買いと1株当たり28セントの最終配当案を発表し、株主への分配額を増額します。これにより、2023年度通期決算以降に発表された株主への総分配額は49億ドルに達し、80億ドル以上という当行グループの目標に向けて順調に進んでいます。」

24 年度の業績の概要（別段の注記がない限り、比較の対象は 23 年度）

- 営業収益は為替変動の影響を除いたベースで14%増収の197億ドル、顕著な収益項目と預金保険の経費への組換（以下、「組換」と言います。）を除くと12%の増収となりました。
 - 純金利収入（NII）は為替変動の影響を除いたベースで10%増の104億ドル、組換を除くと8%増となりました。
 - 非純金利収入は為替変動の影響を除いたベースで20%増の93億ドル、顕著な収益項目を除くと16%増となりました。
 - ウェルスソリューションは為替変動の影響を除いたベースで過去最高の29%の増収となり、インベストメントプロダクツとバンカシュアランスはともに2桁の増収を達成しました。
 - グローバルマーケッツは、フロー収益と一時的な収益がともに好調で、為替変動の影響を除いたベースで15%の増収となりました。
 - グローバルバンキングは、組成量の増加により、為替変動の影響を除いたベースで15%の増収となりました。
 - サステナブルファイナンスによる収益は36%増の9億8,200万ドルで、2025年に10億ドルを越すという目標の達成に向けて非常に順調に進んでいます。
- 営業費用は、効率性の向上で一部相殺されたものの、事業の成長、対象を絞った投資、およびインフレにより、為替変動の影響を除いたベースで7%増の117億ドル、組換を除くと6%の増加となりました。
 - 費用収益比率は為替変動の影響を除いたベースで7%改善し、顕著な収益項目と組換を除くと6%改善しました。
- 信用減損は5%増の5億5,700万ドルとなりました。金利上昇が一部の無担保ポートフォリオの返済に影響したこと、デジタル・パートナーシップ型ポートフォリオが成長し成熟したことなどにより、ウェルス&リテールバンキング（WRB）の信用減損が2億9,000万ドル増の6億4,400万ドルとなりました。当該信用減損は、法人営業・インベストメントバンキング（CIB）の1億600万ドルの純回収により一部相殺されました。
 - 信用損失率は前年比2bp上昇し19bpとなりました。
- その他減損費用は5億8,800万ドルとなり、うち5億6,100万ドルはソフトウェア資産の償却に関連するもので、自己資本比率への影響はありません。
- 為替変動の影響を除いたベースでの特別要因調整後の税引前利益は21%増益の68億ドル、報告ベースの税引前利益は19%増益の60億ドルとなりました。
- 再編関連コストの4億4,100万ドルには、フィット・フォー・グロス・プログラムに関連する1億5,600万ドルのコストが含まれます。「その他」の項目の3億3,200万ドルは主に為替取引損失の組替調整と韓国の株価連係証券ポートフォリオに関する引当金です。
- 税金は19億7,200万ドルとなり、特別要因調整後の実効税率は30.6%と、1.5ポイント上昇しました。
- 当行グループのバランスシートは引き続き健全で流動性が高く、十分に分散されています。
 - 顧客向け貸付金その他の金銭債権は2,810億ドルで、23年12月31日から60億ドル（2%）減少しましたが、為替、およびトレジャリーアンドグローバルマーケッツの証券担保付貸出業務の特別要因調整後では120億ドル（4%）の増加となりました。
 - 顧客預金の残高は23年12月31日から50億ドル（1%）減の4,640億ドル、為替変動の影響を除いたベースでは40億ドル（1%）の増加となりました。
- リスク・アセット（RWA）は23年12月31日から29億ドル増の2,470億ドルとなりました。市場リスク・アセットが34億ドル、オペレーショナル・リスク・アセットが16億ドルそれぞれ増加し、信用リスク・アセットが21億ドル減少しました。
- 当行グループは引き続き盤石な自己資本を有しています。
 - 普通株式等Tier1（CET1）比率は14.2%（23年12月31日時点では14.1%）と、13～14%の目標レンジを上回っています。
 - 近く開始される15億ドルの自社株買いによって、CET1比率は約61bp低下する見込みです。
 - 最終配当案の6億7,900万ドル（1株当たり28セント）が承認された場合には、年間配当は37%増の9億900万ドル（同37セント）となります。
- 特別要因調整後ベースの1株当たり利益（EPS）は39.2セント増加して168.1セント、報告ベースのEPSは32.7セント増加して141.3セントとなりました。
- 1株当たり純有形固定資産額は148セント（11%）増加して15.41ドルになりました。
- 有形資本利益率（RoTE）は、160bp上昇して11.7%になっています。

【本資料は、2025 年 2 月 21 日付で発表された Standard Chartered PLC 4Q'24 and FY'24 Results（一部抜粋）の日本語参考訳です。】

スタンダードチャータードPLC - 2024年度第4四半期および2024年度の業績（前頁続き）

24 年度第 4 四半期の業績の概要（別段の注記がない限り、比較の対象は 23 年度第 4 四半期）

- 営業収益は21%増収の48億ドル、為替変動の影響を除いたベースでは16%の増収（顕著な収益項目と組換を除く）となりました。
 - 純金利収入は為替変動の影響を除いたベースで20%増収の29億ドル、組換を除くと14%の増収となりました。
 - 非純金利収入は為替変動の影響を除いたベースで21%増収の20億ドル、顕著な収益項目を除くと20%の増収となりました。
 - ウェルスソリューションは、インベストメントプロダクツが広範囲で2桁の増収を達成したことにより、為替変動の影響を除いたベースで第4四半期としては過去最高となる36%の増収となりました。
 - グローバルマーケットは、フロー収益と一時的な収益がともに好調で、為替変動の影響を除いたベースで47%の増収となりました。
 - グローバルバンキングは、組成量の増加により、為替変動の影響を除いたベースで26%の増収となりました。
- 営業費用は16%増の32億ドル、為替変動の影響を除いたベースでは、組換を除くと11%の増加となりました。
- 信用減損は1億3,000万ドルとなりました。これは、金利上昇が一部の無担保ポートフォリオの値ごろ感に影響したこと、またデジタル・パートナーシップ・ポートフォリオが成長し成熟したことにより、前四半期比でわずかに増加したWRBの信用減損1億8,500万ドルが含み、またCIBの6,100万ドルの純回収により一部相殺されています。
- その他減損費用は3億5,300万ドルで、ソフトウェア資産の償却に主に関連し、自己資本比率への影響はありません。
- 特別要因調整後の税引前利益は、前年同期比ほぼ横ばいの10億ドルとなりました。
- 顧客向け貸付金その他の金銭債権は24年9月30日から60億ドル（2%）減の2,810億ドル、特別要因調整後ベースでは70億ドル（2%）の増加となりました。
- 顧客預金の残高は24年9月30日から140億ドル（3%）減の4,640億ドル、為替変動の影響を除いたベースではCIBを中心に60億ドル（1%）の減少となりました。
- リスク・アセット（RWA）は24年9月30日から19億ドル減の2,470億ドルとなりました。信用リスク・アセットとオペレーショナル・リスク・アセットが前四半期比横ばいで、市場リスク・アセットが20億ドルの減少となりました。

ガイダンス

2025年度と2026年度のガイダンスは以下の通りです。

- 収益：
 - 営業収益は為替変動の影響を除いたベースで、組替を除き、2023年度から2026年度までに年平均成長率5～7%の増収を予想します。現在、当該範囲の上限に向かう軌道にあります。
 - 2025年度の成長は、為替変動の影響を除いたベースで、顕著な収益項目を除くと、5～7%の範囲を下回ると予想されます。
- 費用：
 - 2026年度の営業費用は、英国銀行税と組替の継続的な影響を含んでおり、為替変動の影響を除いたベースで、123億ドルを下回ると予想します。同一条件ベースでは、2026年度のガイダンスに変更はありません。
 - 費用は約15億ドル削減され、コストはフィット・フォー・グロス・プログラムにより15億ドル以下に抑えられる見通しです。
 - 各年度の費用収益比率は、顕著な収益項目を除くと、為替変動の影響を除いたベースで改善すると予想します。
- 資産とリスク・アセット：
 - 顧客向け貸付金その他の金銭債権とリスク・アセットの増加率は1桁台前半になると予想します。
 - 2025年7月1日に導入されるバーゼル3.1基準はほとんど影響しないと予想しています。
- 30～35bpの範囲のサイクルを通じて、過去の水準に向けて信用損失率が正常化するとの予想を継続します。
- 資本：
 - CET1比率が13～14%の目標範囲内にとどまるように引き続き管理します。
 - 2024年度から2026年度にかけて、累積で80億ドル以上を株主に還元する予定です。
 - 1株当たり年間配当を継続的に増配します。
- RoTEは2026年度に13%に近づき、以後も上昇すると予想します。

【本資料は、2025 年 2 月 21 日付で発表された Standard Chartered PLC 4Q'24 and FY'24 Results（一部抜粋）の日本語参考訳です。】
スタンダードチャータードPLC - 2024年度第4四半期および2024年度の業績（前頁続き）

他の通貨を指すと明記されている場合を除き、本資料内の「ドル」という語または「\$」の記号は米国ドルを指し、「セント」という語または「c」の記号は 1 ドルの 1/100 を意味します。

本資料内で文脈上別段の解釈が必要な場合を除き、「中国」は中華人民共和国を指し、本資料においてのみ、香港特別行政区（香港）、マカオ特別行政区（マカオ）および台湾は含まれません。「韓国」は大韓民国を指します。

本資料内の表において、空欄は数値が開示されていないこと、ダッシュは数値がゼロであること、「nm」は数値が僅少であることを示します。

スタンダードチャータードPLC はイングランドおよびウェールズにおいて設立された有限責任会社であり、ロンドンに本社を置きます。当行グループの本社は、ガバナンスおよび規制基準に関する助言を提供しています。スタンダードチャータードPLC の株式の銘柄コードは、HKSE 02888 および LSE STAN.LN です。

【参考訳に関するご留意事項】 この資料は、スタンダードチャータード銀行東京支店（以下、「当行」と言います。）が、お客様の便宜のために、英語その他の言語の情報を日本語に翻訳し、提供させていただいております。従いまして、当行は、この資料に記載された情報につきまして、独自の検証を行っておりません。専門用語のみならず、翻訳の正確性も保証しておりません。英文資料が正文であり、英文資料と翻訳との間で齟齬がある場合には、英文資料が全てにおいて優先します。

損益計算書（前頁続き）

	2024 (百万ドル)	2023 (百万ドル)	増減 ¹ %
特別要因調整後ベースの業績			
営業収益	19,696	17,378	13
営業費用	(11,790)	(11,136)	(6)
信用減損	(557)	(528)	(5)
その他減損費用	(588)	(130)	nm
関連会社利益	50	94	(47)
税引前利益	6,811	5,678	20
普通株主に帰すべき利益 ²	4,276	3,581	19
普通株主有形資本利益率(%)	11.7	10.1	160bps
費用収益比率(銀行税を除く)(%)	59.4	63.4	404bps
報告ベースの業績			
営業収益	19,543	18,019	8
営業費用	(12,502)	(11,551)	(8)
信用減損	(547)	(508)	(8)
のれんおよびその他の減損	(588)	(1,008)	42
関連会社利益	108	141	(23)
税引前利益	6,014	5,093	18
税金	(1,972)	(1,631)	(21)
当期利益	4,042	3,462	17
親会社株主に帰すべき利益	4,050	3,469	17
普通株主に帰すべき利益 ²	3,593	3,017	19
普通株主有形資本利益率(%)	9.7	8.4	130bps
費用収益比率(%)	64.0	64.1	13bps
純資金利ざや(%) ^(調整後)	1.94	1.67	27bps
バランスシートと資本			
総資産	849,688	822,844	3
総資本	51,284	50,353	2
普通株主に帰すべき平均有形株主資本 ²	36,876	36,098	2
顧客向け貸付金その他の金銭債権	281,032	286,975	(2)
顧客口座	464,489	469,418	(1)
リスク・アセット	247,065	244,151	1
総自己資本	53,091	51,741	3
総自己資本比率(%)	21.5	21.2	30bps
普通株式等Tier 1	35,190	34,314	3
普通株式等Tier 1比率(%)	14.2	14.1	19bps
預貸率(%) ³	53.3	53.3	nm
流動性カバレッジ率(%)	138	145	(670) bps
英国レバレッジ率(%)	4.8	4.7	10bps

	セント	セント	増減 ¹
普通株式1株当たりの情報			
1株当たり利益－特別要因調整後ベース ⁴	168.1	128.9	39.2
－報告ベース ⁴	141.3	108.6	32.7
1株当たり純資産額 ⁵	1,781	1,629	152
1株当たり純有形固定資産額 ⁵	1,541	1,393	148
期末時点の普通株式数（百万株）	2,408	2,637	(9)

1 資産、負債、リスク・アセット以外については、「増減」は改善/（悪化）を示します。総自己資本比率(%)、普通株式等Tier 1比率(%)、純資金利ざや(%)、預貸率(%)、流動性カバレッジ率(%)、英国レバレッジ率(%)については、増減は増減率ではなく、二時点間のパーセンテージ・ポイントの差で示されています。1株当たり利益、1株当たり純資産額、1株当たり純有形固定資産額については、増減は増減率ではなく、二時点間のセントの差で示されています。

2 「普通株主に帰すべき利益」は、非累積償還優先株、および株式に分類されるその他Tier1(AT1)資本証券の保有者に対する支払配当を控除した後の数値です。

3 本比率の算出にあたっては、「顧客向け貸付金その他の金銭債権」の総額には、リバース・レボ契約等担保付貸出金、およびストレス時に返済可能と確認された、中央銀行に保有された承認済みの残高を含んでおらず、一方で、「損益を通じて公正価値(FVTPL)で保有される顧客向け貸付金その他の金銭債権」は含んでいます。総顧客口座数は、FVTPLで保有される顧客口座を含んでいます。

4 特別要因調整後ベースまたは報告ベースの利益を基本的加重平均株式数で割った数値です。

5 期末時点の純資産額、純有形固定資産額および株式数により算出した数値です。